

生産性向上
への助言

藤島林産
株式会社

東日本大震災のあおりを受けて
業績が悪化。効率化を目指し
トヨタ生産方式を導入



アドバイスにより
生産能率が160%アップ



藤島林産 株式会社
常務取締役
藤島二三夫 Fujishima Fumio
〒018-3301
北秋田市綴子字田中下モ31
TEL:0186-62-0390
FAX:0186-62-0392



モノづくりの原則に立ち戻る

昭和40年創業の北秋田市鷹巣にある藤島林産株式会社。親会社である藤島木材工業株式会社が製材した広葉樹をフローリング材に加工している。現在では一般的となった直張りフローリングだが、昭和59年に当社が業界では初めて市場に出したという実績を持つ老舗のフローリング材メーカーだ。常務取締役の藤島二三夫さんにお話を伺った。

「創業時は無垢のフローリング材を製造していましたが、平成8年からは複合フローリングも手掛けています。東日本大震災によって売上が落ち込み、秋田県の事業を活用して生産の効率化のための助言を受けました。まずは複合フローリングの工場から着手しました。モノづくりという点においては、自動車以外の分野でも原則は同じ。そこで、トヨタ生産方式を参考に改善を進めていくことになりましたが、誰もトヨタ方式についての知識がなかったため、改善の基本を理解することから始まりました」。

作業を洗い出し、ルールを設定

「御社の工場にはルールがない」と指摘を受けたという藤島さん。まずはルールを作って運用することから具体的な改善が始まった。

「すべての工員が共通認識を持っているという状況ではなかったこともわかり、作業工程を撮影するなどして、業務の洗い出しを行いました。加えて幅広く作業ができる工員を育てて多能工化することも必要でした。また、かつては大きな単位で一つの工程を進め、終わってから次の工程へ移っていましたが、工程ごとに少ない数量で作業を進め、複数の工程を同時進行できるように変更しました。取組から4年目には生産能率を160%まで増やすことに成功。小ロット、短納期、多品種といったニーズに応じることができるようになったのも大きなメリットです」。

現在では親会社の藤島木材工業でも改善指導を受けている。広葉樹の加工において、確かな技術を持つ両社。生産性の効率化により、さらなる飛躍が期待される。



かつては製品や材料が乱雑に置かれていたという工場内。改善後は整理整頓が徹底されている。



藤島林産ではフローリング、藤島木材工業ではキッチンカウンターやテーブルの天板、階段材などの生産を行っている。



広葉樹一筋に製材から乾燥までを行っている。特に乾燥技術は群を抜き、品質管理の厳しい楽器にも使える基準。

活用事例
生産性向上への助言

生産性向上のための課題抽出やその解決に向けた取組、デジタル化推進のためのICT活用について、専門家等が改善指導やアドバイスを行います。

【お問い合わせ】
取引振興課
TEL.018-860-5623